

名取・閉上混乱

証言

3・11大震災

「5差路」で車滞留

1面から続く



5差路上の歩道橋から閉上大橋方面を撮影した画像

通行止めの閉上大橋に向う車がきっかり並んでいる

津波は車などを巻き込みながら押し寄せ、5差路をのみ込んだ。3月11日午後4時10分ごろ、名取市閉上

大橋通行止め、信号消える

名取市閉上周辺の道路は巨大地震の直後、激しい混雑で車が身動きの取れない状態に陥っていた。閉上大橋は事故で通行止めになり、そのたもとの5差路は車が殺到、信号も機能しない。周囲に高台が少なく、車を使った避難者が多かったことに加え、道路の構造にも被害を拡大する要因が潜んでいた可能性がある。

閉上地区から内陸部へ向かう場合、主に二つのルートがある。閉上中や閉上公民館の前を通る市道と、バス通りと呼ばれる名取川沿いの県道閉上港線だ。二つの道路は閉上大橋のたもとで県道塩釜直理線と交わり、5差路を形成している。

雑な車の流れを整理する信号は停電で消えた。

「橋を通過して仙台方面に向かおうとする車と、内陸へ避難する車が続々と来た。5差路と周辺で車が滞留し始めた」

仙台市内の勤務先に向かっていた会社員吉田唯樹さん(34)は青葉区に振り返る。吉田さんは車から降り、交通整理を始めた。

橋の通行止めで仙台方面へのルートが閉ざされ

東洋大・関谷直也准教授

高台遠い平野部 避難道路整備を

東洋大などが4月下旬に行きと受け止め、教訓にしなければならぬ」と指摘する。東日本大震災の発生直後、名取市閉上地区では車での避難から閉上中への避難誘導につながり、車への依り「公民館、閉上中とも、

存度が高かった実態が浮き彫りになっている。東洋大の関も浸水しない想定だった。情谷直也准教授(災害情報)は「高台が遠い平野部では、車全な場所へ移動させようとできなかった。その事実をきちんとは非難できないだろう」と話

たため、ほとんどの車が内陸部に通じる県道閉上港線に向かい、車の流れが滞った。午後3時25分すぎ、5差路前の倉庫会社の従業員加藤千加子さん(56)は太白区に滞りにはまった。「早く帰宅したかったのにノロノロしか進まず、焦った」

午後3時50分。津波は閉上大橋の事故現場へ向かった岩沼署交通課の斎藤武志警部補(51)は「避難先の閉上中に入るうとする車で、公民館前付近から前に進めなくなった。パトカーのサイレンを鳴らし、対向車線を走った」と語る。



閉上4丁目の会社員小斎誠進さん(42)も同じころ、公民館前から車が数珠つなぎになっているのを目撃している。歩いて閉上中へ移動する人も大勢いた。

「名取川河口に迫る大津波が見えたので、自転車を必死にこいだ。『すこい津波だ。逃げて』と周った」

その上で5差路交差点付近で津波にのまれた人が多数出たことについては「5差路という構造が波を引き起こした。それが避難者が集中する地点にあったことが問題だった」と語る。

関谷准教授は「これまで津波避難に車利用はタブー視されてきた。しかし、平野が続く閉上のような地域では有効な面も否定できない。5差路を解消し、早く安全に車で避難できる道路整備を、復興計画に盛り込む必要がある」と提案する。